

くらし再発見

巻頭特集では、多忙な生活の中でふと忘れがちだけれど大切なことをテーマとした、「くらし再発見」シリーズをお届けします。今回は、よこはま動物園ズーラシアの増井光子園長と金融広報中央委員会・豊田武久会長の対談です。約半世紀にわたり、動物とかわって来た増井園長のお話をうかがいました。

対談実施日：平成20年1月24日(木)〔肩書きは当時のもの〕



動植物と共に 良く生きる

豊田会長 本日は、お忙しいところ、お時間をいただきまして、ありがとうございます。増井園長は、大学では獣医学部を専攻され、その後はずっと動物とのかかわりを軸に、活躍の場を広げていらつしゃいますね。小さいころから動物に興味を持たれていたのですか。

増井園長 幼少期は、大阪市内に住っていたのですが、終戦間際の小学校二年生のときに、大阪の生駒山のふもとに引越しました。周りは水田と山が広がる自然に恵まれた環境で、家畜や小さな動物も身近な存在でした。そのような生活でしたから、自然に生き物を見たり触れたりするのが、好きになっただけです。その後、獣医となり、動物園に勤務する原点が、このときの生活にあったと思います。

豊田会長 実は私も大阪市出身で、子どものころの一時期、郊外に疎開した経験があります。そのころは私も自然豊かな環境の中で、元気がいっぱい遊んでいました。そのときの影響か、現在、植物が好きで、今では自分の家の庭にさまざまな野草を植えたりしています。

子どものころから動物は身近な存在

目次

■巻頭特集 くらし再発見

会長対談

動植物と共に良く生きる

よこはま動物園ズーラシア園長 増井 光子



■金融教育の現場レポート

クレジットカードを教材にした 具体的な金融教育の展開

千葉県千葉市立轟町中学校



3

■連載 江戸のくらしと金銭観 一第4回一

10

現在に受け継がれる、江戸の経済・商い
「江戸町民の共有金は
明治のまちづくりにも役立ちました」
江戸東京博物館館長 竹内 誠

13

■そこが知りたい! くらしの金融知識

知っておこう 年金の基礎知識
「身近な問題として、
年金の仕組みを理解しましょう」
社会保険労務士 森萩 忠義

18

■将来へのまなざし

「父親の丁寧な仕事振りを見て、職人を目指しました」
庭師 星 宏海



20

■知るぽると最前線

「金融教育フェスティバル 2008」を盛大に開催

22

■今すぐ役立つ きんゆう知恵袋

26

多重債務問題の背景と現状
(社)全国消費生活相談員協会 常任理事 菅 美千世

28

■趣味の散歩道～生活いきいき～

ウォーキング
「歩く道すがら」を楽しみましょう
ウォーキングインストラクター 奥野 清歩

30

■知るぽるとラウンジ

都道府県金融広報委員会の活動紹介
金融広報アドバイザー紹介

33

■読者のおたよりコーナー

知るぽるとクイズ

34

■金融広報だより

平成20年度の「活動方針」を発表しました
編集後記

35

■知るぽるとミュージアム

ポスターが語る昭和のくらし



増井 光子(よこはま動物園スーリアン園長)

●プロフィール

昭和十二年大阪生まれ。三十四年より上野動物園に勤務し、六十年には日本で初めてパンダの人工繁殖を成功させた。井の頭自然文化園園長、多摩動物公園園長、上野動物園園長、日本動物園水族館協会会長等を経て、よこはま動物園スーリアン園長、兵庫県立コウノトリの郷公園園長を務める。

従来の動物園とは異なる コンセプト

豊田会長 そんなこともあり、今日は、豊かな自然に囲まれたこの環境で、増井園長とお話しさせていただくのを楽しみにしていました。

実は、私はこれまで、こちらの動物園を何度か訪れていますが、いつもスケールの大きさに感動していました。

季節の花々や、木々なども多く植えてあり、植物好きにはうれしい限りです。この広い敷地の中で、植物に囲まれて動物たちはゆうゆうと生活しているさまが、見ても分かります。本来の自然の状態が再現されているからこそ、動

て、自己啓発の場所にもなるといいなと思います。例えば、生物の多様性について知っていくことによって、人と動物のかかわりや、地球環境などについて考えるきっかけとなってもらえればと考えています。実際に動物に触れることによつて、情操教育につながる面もあるでしょう。

豊田会長 おっしゃるとおりですね。教育や自己啓発の場というのは、いろいろなところがその役割を果たせると思います。私も金融広報中央委員会でも、「金融教育」の実践を広げる支援活動をしています。「教室の中」や「特別な授業」に限らず、幅広い場面で実践していただけるよう工夫しています。

豊田 武久(金融広報中央委員会会長)

●プロフィール

昭和十八年生まれ。東京大学法学部卒業後、日本銀行入行。那覇支店長、調査役、金沢支店長、人事局長、清水建設(株)常務取締役(株)整理回収機構副社長を経て、平成十八年三月金融広報中央委員会会長に就任。(肩書きは当時のもの)



物たちも活発に動いていますね。自然界の仕組みや、動物の動きなどを見ることができると、大変勉強にもなります。

増井園長 当園も、今年でオープンから九年目を迎えます。近年こそお客さまに認めていただいているのですが、開館当初は批判もありました。五〇ヘクタールという広大な面積の中に、動物が方々に放されているので、動物園なのに動物を間近に見られないとの批判でした。

豊田会長 その意味では従来の動物園とまったくコンセプトが違いますね。

増井園長 従来の動物園は、世界から珍しい動物をできるだけ多く集めて、檻飼育して展



インドネシアに生息するスマトラトラ。熱帯雨林特有の生息環境を再現した園内の「アジアの熱帯林」ゾーンで、のびのびと活動



園内の横浜市繁殖センターで繁殖したカムリシロムク

環境問題は、悲観するよりも まず行動することが大切

豊田会長 ところで、地球温暖化をはじめとした環境問題が社会的に大きな問題となっていますね。動物園の役割の一つに希少動物の繁殖があるとお聞きしています。動物の種類や数が減少しているといわれていますが、その背景には、やはり環境破壊が進んでいることもあるのでしょうか。

増井園長 地球温暖化など、環境破壊は、人類という一種類の生物が引き起こしたものです。他の動物にも大きな影響が出ています。以前からも絶滅する動物はありましたが、近年はそのスピードが速くなっていますね。例えばアフリカゾウにしても、急激に数を減らしています。私が初めてアフリカに行った三十数年前には百三十万頭ぐらいたのが今はその半分ぐらいになってしまいました。

示するというのが主流でした。しかし、そのような展示法では実際の環境の中でどのように暮らしているかを伝えることができませんでした。また、「あんな狭い檻に閉じ込められてかわいそう」といった声が聞かれるようになり、動物園の在り方も変わってきたわけです。現在では、当園のような生息展示を行う動物園も受け入れられています。当時はまだ珍しかったんですね。

豊田会長 来場者の特徴はどのようなものですか。

増井園長 当園の入場者数は、近年は横ばいですが、特徴はリピーターが五割と非常に多いことですね。さらにこれまで動物園というお子さんが主体でしたが、当園の場合、年齢層は高く、シニアの方も多くいらつやいます。

最近では、健康維持を目的にいらつやる方も多そうですね。自然が満ちていますから、森林浴を楽しみながら、動物を見て歩くので気持ちがよく癒されますし、ウォーキング効果もあります。毎週のように入園される方もいます。日本人はやはりとても草木や花が好きですので、もっと植物を植えていくなど工夫したいと考えています。

動物園は自己啓発の場にもなる

増井園長 私は、動物園が来場者の方にとつ

さらに悪いことに、数が減れば減るほど、その動物の希少価値が上がりが、高く売買されるという事情もあります。守ろう、保護しようとする人がいる一方で、密猟して高く売ろうとする人が後を絶ちません。インドネシアのバリ島には、カムリシロムクという鳥が生息しています。飼ひ鳥としての人気が高いため、密猟が多く行われ、絶滅の危険性が出ています。当園では、このカムリシロムクを飼育・繁殖し、生息地のバリ島に再導入するという保全事業をインドネシア政府と協力して行っていますが、再導入したカムリシロムクも不用意に放鳥すれば密猟者に狙われてしまう、といった状況です。

豊田会長 その一方で最近になって、ようやく、環境問題に関心が高まるようになりました。タクシーに乗ると、運転手さんからあいさつ代わりに地球温暖化の話が出たりしています。日本をはじめ各国でも対策が進んでいます。日本をはじめ各国でも対策が進んでいます。日本をはじめ各国でも対策が進んでいます。日本をはじめ各国でも対策が進んでいます。

増井園長 そうですね。皆が事の重大さを認識して努力すれば、まだ危機を回避できるのではないのでしょうか。悲観するよりも、一人一人ができる範囲で、行動に移していくことが大切でしょう。横浜市では二〇二五年度までに、市民一人当たりの温室効果ガスの排



よこはま動物園でも、コウノトリを飼育している

出量を三〇パーセント以上削減しようという運動を行っています。このような取り組みが広がっていけば、世の中は変わると思っています。ただ、すぐにできるわけではありません。動物園だって、現在の生熊展示が行われ、受け入れられるまで、長い時間がかかりました。地道に活動を続けることが必要でしょう。

豊田会長 普段の生活の中で、意識を変えていくことも必要でしょうね。私は自分の庭を自然の野原に近い形にしたいと思いい、現在かなり目標に近づいてきました。家族や近所からは少々冷たい眼で見られていますが、鳥や昆虫がいろいろやってきて、一日中眺めていても飽きないくらいです。私は、都市の公園などでも、噴水に花壇といった画一的なものではなくて、ビオトープ(注1)を作り、さまざまな野草や昆虫が見られる環境を作っていくのがよいと思っています。**増井園長** 生物の多様性があるって、私たちの暮らしが成り立つことを忘れてはいけませんね。

コウノトリが運ぶ 野生動物と人間の共生

増井園長 これからは、いかに野生動物と人間が共生できるかが大きな課題となると思います。兵庫県豊岡市では、コウノトリの野生復帰と共生の取り組みを、地域を挙げて行っています。この豊岡市は、コウノトリの最後の生息地です。

えるべきですね。豊かな自然がなければ私たちの経済も文化も暮らしも成り立ちませんから。**増井園長** そうですね。さらに素晴らしい点は、この取り組みが、動物の保護にとどまらず、自分たちの暮らしを守ることもつながっているという点です。良好な環境や、安全な農産物は私たちの生きていく基盤です。さらに、多くの人に農産物を購入していただくことで、農業の振興にもつながりますし、住民の誇りにもつながっています。**豊田会長** 日本は農耕社会に入ってから、ついこの間まで野生動物と、上手にすみ分けをしながら共生してきた歴史があります。別に昔の生活に戻ろうというのではなく、各地で今の時代に合わせた共生が行われればよいですね。



豊岡市では、コウノトリとの共生のため、市民が中心となって水田のビオトープ化などを推進

たが、昭和四十六年に最後の一羽が姿を消してしまいました。その後、地元では、友好関係にあるロシアから幼鳥を譲渡してもらって育てたり、人工ふ化を行うなどして、数を増やしてきました。そして、平成十一年には、保護増殖や野生復帰等の専門的な研究を行うため、「兵庫県立コウノトリの郷公園」が開園され、私はその園長も兼任しています。平成十七年には、繁殖したコウノトリの一部を試験的に放鳥しました。自然界での繁殖にも成功し、雛が一羽育ちました。

在来馬をもっと活用したい

豊田会長 共生ということでは、増井園長は日本古来の在来馬の普及にも力を入れていらっしゃいますね。日本には八種類の在来馬がいるようですが、私も三種類ほど見たことがあります。

増井園長 在来馬は数が非常に少なくなってきています。なぜかという、現在の世の中には活躍する場所や機会がないからです。もともと使役馬として活躍していたのが、機械化が進み、役割がなくなったために、急激に数が減少してしまいました。

ですから、在来馬を絶やさないためには、活用することが必要なんです。もともと馬の姿が町中で見られるようになってほしいですね。そこで、私は思いを同じくする人たちと「NPO法人 神奈川馬の道ネットワーク」という組織を立ち上げて、馬遊びが都会でできるようにする運動を行っています。また、六十歳近くなつてから、馬の競技の一つである「エンデュランス(注3)」も始めて、海外でのレースにも出ています。

豊田会長 国際大会でも大いに活躍されていますね。それだけでもアピール効果は大きなものがありますね。

増井園長 また、馬は子どもの教育にも効果的ではないかと感じています。あれほど、力が

豊田会長 コウノトリが生息するためには、地域社会の協力が必要でしょうね。**増井園長** その通りです。自然に帰すといっても、地域には人間の暮らしがあります。人間とコウノトリが一緒に暮らせる環境作り、共生できる社会を、地域の協力を得て整えていかなければなりません。

豊田会長 具体的にはどのようなことがなされているのでしょうか。**増井園長** 試験放鳥の前から、コウノトリの餌場の確保や巣を作るための里山の整備や松の植栽などが行われました。餌場については、コウノトリの餌となるドジョウやタニシが地域の田んぼに住めるように、アイガモ農法(注2)に取り組むなどして、無農薬栽培、有機栽培が行われました。さらに地域のNPOが子どもを対象とする環境学習を実施したり、地域の人がそれぞれの立場でコウノトリの野生復帰運動を支援しています。

さらに、そのような無農薬で栽培された農産物は、兵庫県や豊岡市から認証され、ブランド化されています。ほかの生産物よりも手間暇がかかる分、それらの農産物は、値段は割高ですが安全性が高く、消費者の理解も広がり、売れ行きがよいですね。**豊田会長** 少々値段は高くても、われわれが生存していくための、共通のコストとら



園内の「ばかばか広場」にて行われる乗馬体験。子どもがまたがっているのは在来馬の一種である木曾馬

強く、体が大きい動物です。子どもの力ではどうにもなりません。人間の方が力が強い、小さな動物をペットにするのとは違います。きちんと扱わなければ、思い通りに動いてくれません。蹴ったり噛んだりすることもありません。その代わり、心を通わせて、大きな馬の上に乗せてもらうと楽しいし、癒されます。馬と良い関係を作っていくために、子どもは多くのことを考えるのです。

豊田会長 馬と触れ合うことによる情操教育、素晴らしいですね。

ところで、在来馬もそうですが、植物好きの私としては、日本古来の植物の将来を、心配しています。昔はどこでも見られた日本種のタンポポも、都会ではなかなかお目にかかれなくなってしまうました。二輪草という花も

(注2) アイガモ農法：水田にアイガモを放して、除草・害虫の駆除してもらい無農薬でお米を作る農法。
(注3) エンデュランス：長距離(80~160km)を制限時間内で走る馬術競技。馬のマラソンとも呼ばれる。現在では国際馬術連盟の公式種目に認定されている。

(注1) ビオトープ：人為的に生物の生息環境を整備した空間。適度に草取りなどの人手を加えながら、自然が本来持っている力を引き出す。生態系の多様性を維持する上から、注目されている。



園内の「オセアニアの草原」ゾーンはオーストラリア特有の乾燥した草原が広がる。向こうに見えるのはアカカンガルー

動物も親の影響が大きい

豊田会長 長年動物とかかわってこられて、動物の教育や子育ての在り方から、私たち人間にとって参考となることはありますか。

増井園長 子どもは親の背中を見て育つといいますが、動物も同じように、親の姿を見習って成長します。親が神経質だと、子どもも神経質になるし、親が落ち着いていると、子どもも見習って落ち着いた性質を身につけます。それくらい親の影響というのは、大きいんですね。

最近、コウノトリの子別れを見ました。昨年七月に自然界で四十三年ぶりに誕生して、無事育った若鳥です。今年一月まで両親と共に暮らし、親に甘えていましたが、新たな繁殖期を迎えて、親から決然と自立を申し渡されました。もうどんなに親にすがろうとしても、きっぱりと拒絶され、少しずつ一人で暮らすことに慣れつつあります。

動物の子育てを見ていると、かわいがるときは捨て身で世話をし、独立のときには決然とした態度をとる。そのメリハリのよさに感心します。

豊田会長 親が果たす役割が大きいのは、動物でも人間でも同じですね。最近の人間社会で



1901年に発見された希少動物のオカビ。キリンのように長い舌で木の葉や新芽をたぐり寄せて食べる。園内の「アフリカの熱帯雨林」ゾーンで飼育

シニアだからこそ もっとアクティブに

豊田会長 現在、団塊の世代の方々が定年退職をされています。増井園長のご活躍を拝見して、シニアの方はとても勇気付けられると思います。

増井園長 私は年齢にかかわらず、やりたいと思ったときが始めるときだと思っています。何歳になったから無理だとか、ダメだとか限界を設ける必要はありません。むしろ、シニアの方が活動的になるべきだとさえ考えています。

以前、馬術競技の調教師に聞いたことがあります。馬は年を取れば取るほど、毎日きちんと運動させる。そうすれば、二十歳になっても、二十五歳になっても現役馬として、競技に出場できるというんです。逆に、年をとったからと、動かないとすぐに身体は衰えてしまいます。意欲を持ち、アクティブに活動してれば、年齢は関係ありません。今、乗馬クラブでも、シニアの方の会員が増えているんですね。とてもいいことだと思います。

ウォーキングもいいですね。最近私どもと麻布大学の介在動物学研究室との協同研究で、動物園で動物を見ながら過ごすことは、ストレスを軽減し、高齢者の健康にとってきわめて効果があることが分かりました。動物園は気

ほどの馬術競技での活躍をはじめ、挑戦の連続ですね。お仕事でも、女性初という形容詞が数々つき、バイオニアとして挑戦を続けていらしている。

増井園長 私の信条は「願えばかなう」。これがしたいと思うと、理解してくださったりする方が現れるなどして、自然と道が開けてきました。

豊田会長 天は思いのある人の味方をするのでしようね。そういう経験は多いのですか。

増井園長 何度も経験しています。例えば、上野動物園に就職するときもそうでした。押しかけるようにして、何度も頼み込みましたが、当初はそのたびに断られました。そのときは採用枠がなかったようなので、当然の話です。ところが、ダメなはずがないと勝手に思い込みまして、さらに何度もお願いを続けたところ、一年限定の臨時雇いで入れていただき、そこから運が開けました。

動物園に入ると、やがて、狭い檻に動物を入れて展示する、当時の動物園の在り方に疑問を持つようになりました。すると、だんだんと世の中の考え方が変わり、当園のような、自然の中で動物を飼育する動物園が出てきました。今は、コウノトリの野生復帰をはじめとして、人と動物の共生が大きな問題となっていますが、これも昔から心の中で考えてきたものです。



対談を終えて、園内を散策。インド象の前で撮影

軽に行ける施設で、園内は安全ですから、もっと多くの方に日常的に活用していただきたいと思っています。

また、健康という観点では食も大切な要素ですね。私は食事も極力、玄米をとるよう心掛けています。

豊田会長 最近はお米の効用が見直されているようですね。やはり日本人は日本古来の食物が合っているのかもしれない。いずれにせよ、年齢にかかわらず楽しく、活動的に暮らすことが重要ですね。本日は、動物園の役割から、人間と動物の共生や教育まで、幅広くお話を聞きすることができました。長時間にわたり、ありがとうございました。

は親の子育て放棄などが問題になります。動物は大丈夫なのですか。

増井園長 基本的に生き物ですから、動物も人間も変わらないと思いますよ。先ほどお話ししたコウノトリだって、中にはしっかり夫婦げんかをするものもいます。子育てをほっぽりだして、けんかに明け暮れるものですが、人間があわてて、けんかの仲裁に入ることもあります。共通するところも、参考にすべきところもいっぱいあるのです。

願えばかなう！ やりたいことを積極的に行動

豊田会長 ところで、増井園長の人生は、先